



トヨタネ瓦版 2020



トヨタネ株式会社 本社：豊橋市向草間町字北新切12-1／〒441-8517／TEL0532-45-4137(代)／FAX0532-45-4494

社内報：第47号・発行所：総務部：編集・構成：朝倉芳則

URL <https://www.toyotane.co.jp> Email : info@toyotane.co.jp 撮影場所：豊橋市細谷町 撮影日：2020年8月2日（日）

私にとっての地球環境問題の変遷

今年も暑い夏がやってきました。

会社も種・野菜苗の生産販売の最盛期です。

猛暑期と最繁忙期が重なるこの季節は心配の「種」が尽きません。おまけに新型コロナウイルス第2波が予想より早く到来、感染防止と熱中症対策の間で例年以上にストレスが貯まる毎日です。

少し話題が現実からそれますが、この新型コロナウイルスによるパンデミックは地球環境問題にどのような影響を与えるのか今のところ見通せません。

 最悪のシナリオは感染症問題が今後も次々起こり、地球環境問題は2の次、国家も企業も理念の上でも財政的にも関心が薄れ、予算を割く余裕もなくなることです。それとも更なる過酷なパンデミック自体によって地球環境問題自体が消滅・・・これは今を生きる我々にとって最悪のシナリオです。

1957年生まれの私にとって、1960年代の環境問題は公害問題でした。「水俣病」「四日市喘息」「イタイイタイ病」、毎日ニュースで流されるベトナム戦争の映像と水俣病の映像が焼き付いています。ドブ水のような身近な河川の存在はリアルな問題でした。また枯葉作戦に象徴されるベトナム戦争そのものも地球環境問題でした。

1972年ローマクラブが「成長の限界」を発表し、化石燃料の枯渇を警告しました。翌1973年第4次中東戦争が勃発し、トイレットペーパー騒動が起きました。このまま

 石油を使い続ければ20世紀中に石油は枯渇すると言われました。後から知ったことですがこの1972年国連による初めての地球環境会議が開かれ、ストックホルム宣言が採択されました。

「ONLY ONE EARTH」（かけがえのない地球）が標語となりました。当時左巻きだった私にとって車社会の伸展は敵（人類の未来にとって悪いこと）でした。車に憧れる同世代は無責任ではないかと自暴自棄な気分になったときもあります。一方原子力は化石燃料に代わる夢のテ

クノロジーと信じていました。70年代から80年代の環境問題は化石燃料の枯渇、及び地球資源の有限と人口爆発問題でした。

ところが1990年代になると、新たな油田も次々発掘され、化石燃料の寿命も21世紀後半まで持ちそうだという話になりました。1990年代の主な地球環境問題は「オゾン層破壊問題」となりました。そのような時代に国連主催でリオデジャネイロで開かれた地球サミットでの標語「SUSTAINABLE DEVELOPMENT】（持続可能な発展）には心を動かされました。

 この理念が本当に実現可能であれば正に人類社会は持続可能と楽天的に考えました。ゼロ・エミッション社会という言葉も提唱されました。しかしその後21世紀を迎えると地球環境問題は二酸化炭素(CO₂)排出量増加による地球温暖化問題に収斂されつつあります。オゾン層破壊の問題はどこに行ったのだろうと思う程です。そして2015年の国連会議後提唱されている「SDGs」の標語、あるいはレインボーようなデザインは、1992年のリオでの熱狂の焼き回しではないかと思ってしまいます。そして今年2020年の新型コロナウイルスによるパンデミック。地球温暖化と未知の感染症によるパンデミックは連動しながら、今後次々未知の現象が人類社会に起きるのではないかと恐れられています。

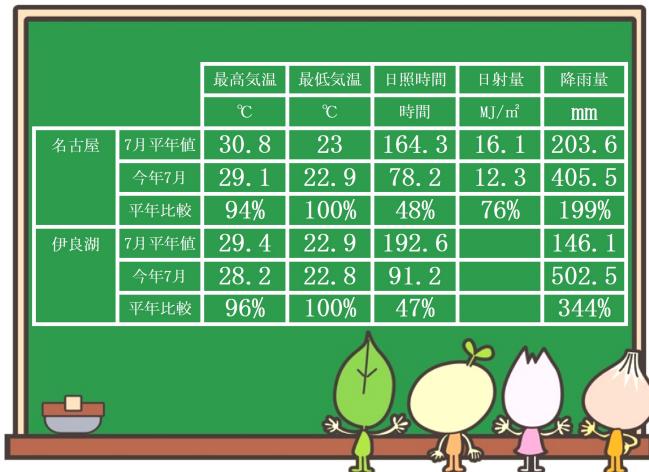
未来について悲観的な見方となりましたが、その中でも食糧生産を担う農業の役割はますます重要になると自負しています。人口爆発は90億人前後で収斂するというのが私の見方ですが、安定的な食糧生産は唯一「持続可能」な人類資産であると考えます。農業の未来に少しでも役立てばと思っています。

川西裕康

7月の気象データ

7月は記録的大雨や例年よりも長い梅雨でほとんど晴れの日がありませんでした。

体感的にも例年の7月とは異なりましたが、気象庁のデータを確認すると以下のようになります。



(表参照：愛知県の名古屋及び伊良湖データ)

名古屋と伊良湖で数値は異なります。どちらも今年の傾向として最高気温が低く、日照時間が半分以下、降雨量が2~3倍であった。最低気温は他の値ほど変化がなく平年値並でした。また日射量は曇りの日でもこの時期は思っている以上にある。日射量で比較すると平年の76%となり、2~3月並の日射量となります。

数値にしてみると人間が感じる気象とは異なる部分もある。プロファームのようにデータで管理することの重要性が増してくるのと、異常気象も毎年のように発生している。気象の変化に対応できるように各種資材を提案していきたいと考えております。

三浦慎一

農場だより

8月に入り、猛暑が続き1年で一番過酷な季節を迎えた。今年の梅雨は長かった為、一層暑さが体に堪えている。農場の作型も7月22日にアールスメロンの公開調査で栽培作物が終了した。

内容について下記に紹介する。

社内のメロン公開調査は各営業所種苗スタッフによる検討会が行われる。連休前での公開調査である。

日程は7月22日（水）午後から。若干熟期が早いが休日の関係で行われる。

①最初の公開調査はメロンの試食



各種品種と試験品種などの試食である。

食べすぎないよう含むだけである。

ワインなどの試飲と同要に要注意である。

②公開調査、外観見た目評価

メロンの外観、見た目の評価を行う。

③公開調査 地域状況 意見交換 評価

種苗関係者による地域の状況、品種、病気など。

④種苗担当者による品種投票を行う

見た目と食味。

⑤コロナ禍の影響について

メロン狩りに影響が出てJA、市場への出荷が大幅に増える。えっと思える数字、%ではないです。何倍か！驚き

⑥品種に求められる点

えそ斑点病やうどんこ病に対する耐性のあるもの。

贈答であれば硬めの品種。

メロン狩り用途であれば柔らかめの品種特性。

現在は圃場内の整備、ココバッジの入れ替えなどの作業を行い第4圃場Eハウスのイチゴ栽培システムのリニューアルに向けて現在暑い中作業をしている。皆で熱中症にならないように注意を促している。それと同時に次作の苗の種蒔きが始まる。育苗ハウスの中でトマトもバテバテに生育している。水やりひとつでコロッと顔色が変わってしまう。8月の育苗は難しく油断できないのが現状である。同事務所の豊橋ナーセリーの皆もほんとに暑い中がんばっている。研究農場も失敗はできません。秋には順調に生育した野菜を見せれるように取り組んでいく。露地作のキャベツ・ブロッコリーも播種が始まり苗場での作業と圃場の準備で大忙しだる。今年も大型台風が心配されるが、乗り切って行く所存である。

水谷雅祥

インターンシップ

インターンシップが昨年より少し早い6月にスタートをしました。これまでに3回終えて、11名の方が参加。6月末～7月中旬の回は順調に行いましたが、新型コロナウイルス感染の再拡大を見て、8月5日～6日の回はオンラインで開催しました。

学生さんから好評の声が多い営業同行と作業体験ができる中、少しでもそれに近いものを伝えられるよう、「写真を使った仕事説明」「事務所と倉庫、農場ナーセリー圃場の生中継」を実施。例

えば農場の中継では、育苗ハウスを案内する新入社員を採用チームが撮影、事務所から先輩社員が解説しました。（写真）



(感想文より抜粋)

「オンラインでもトヨタネが身近に感じられた」「中継は実際に見学しているような感覚で見ることができました」改善点もありましたので、工夫しながら続けてていきたいと思います。

急遽、写真撮影をして資料を作っていた各部署の皆様、生中継の際にあたたかく対応いただいた皆様、ありがとうございます。

今年の内定者も3割がインターン参加者で、今後も新卒採用においてインターンシップはとても重要だと思います。今後ともご協力をお願いします。

聞き手 伊藤さつき

内定者の集い

8月4日火曜日に、オンラインで「内定者の集い」を行いました。2021年春入社予定の内定者は、男性4名、女性5名の9名。バスケ・水泳・テニス・野球などスポーツを長く続けている方が多い印象です。今年はコロナ禍で採用業務にも様々な影響がありましたが、ついにこの日を迎えて一安心です。

内定者の集いでは「自分史年表」を作って発表するというものが恒例ですが、オンラインは初めて。果たして画面越しで初対面同士が打ち解けられるのか?と心配しましたが、手が上がらない瞬間に無いぐらいにたくさん質問が出たり、自然と笑いが起こつ

たり、和やかな雰囲気で終了しました。

<自分史発表抜粋>

「20歳の誕生日当日、嵐が活動休止を発表（※嵐ファン）」「クールキャラがモテると思っていたが、まちがっていると気付いた時には高校3年生」「100mハードルで名古屋市強化選手に選ばれる」

直接みんなで集まることがなかなか難しい状況が続いますが、今後は「内定メール」に加えて今回のようなオンラインミーティングも時々取り入れるなど、この状況でも例年通りのサポートができるよう模索し、4月に安心して入社していただきたいと思います。

聞き手 伊藤さつき

SDGs

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。

SDGs : Sustainable Development Goalsの略称。

SDGs（読み：エズ・ディー・ジーズ）。

▼17のゴール

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナーシップで目標を達成しよう



環境問題を考慮しつつ、経済的に発展し、戦争や貧困のない世界をつくるために、何をすべきなのか。

問題意識を踏まえ、取り組みは多種多様に広がります。

△17のゴールの一つ「飢餓をゼロに」について

“農業”について書かれております。

当社、私達も身近に考えることができる課題。

△地元豊橋市の取り組みについて

SDGsを推進する企業をパートナーとして募集している。

当社も取り組む数を増やしながら、SDGsについて関わっていきたいと考えております。

藤井泰孝

新入社員始まりの1ページ

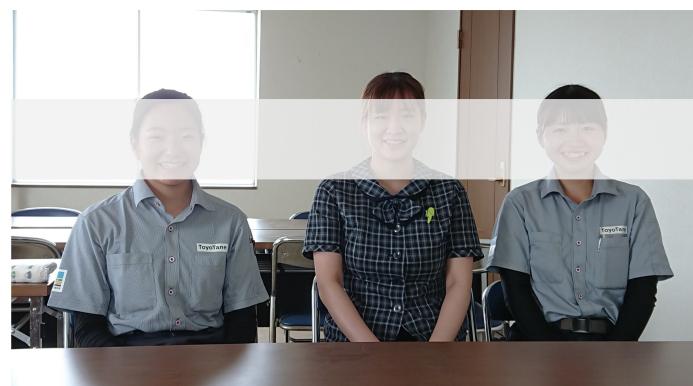
渥美営業所の新入社員の方々。改めてInfo

左側：TYさん種苗職

中央：KMさん事務職

右側：TYさん営業職

（3秒ルールで撮影をさせていただきました。）



自然と出る笑顔が印象的でした。

コロナ禍の中、マスク着用で良いスマイルを出せないのは残念ですが目ヂカラとボディーアクションで暫くは接客対応。コロナでのハンディー、色々と工夫や発見で進化するかもしれません。若さのパッションで解決。

・TYさん

あま市の出身。

物作りが好きなライダー女子でもある。インパクトドライバーなど使ってしまう何でも試してみる実践タイプ。現在も趣味のツーリングを続けているようです。

・KMさん

地元田原市の出身。

趣味はバドミントン。

入社時の意気込みは笑顔を絶やさず農業に携われることを誇りとして頑張りました。リアルに事務職としても接客対応もバッチャリという印象。

・TYさん

京都市の出身。

営業職Woman、自己PRは上期勉強会でも披露したお笑いである。YYさんとの掛け合いはバッチャリでした。またロープ掛けの万力掛けもマスターしたようです。

私からのアドバイス

「始まりの1を知る」基本を知ると見えてきます。

具体的に農業資材や栽培は規格や考え方仕組みが尺貫法を基本としている。

300坪は10間×30間＝300坪

メートルに直さずダイレクトに考える。バイリンガルのように。英語を理解するには英語で考える。

マルチなどの単価は体積、鉄の単価はキロ、比重です。

物流コスト、付加価値、価格を計算する時に役立ちます。

アルゴリズム的に考える。Simple is Best

聞き手 朝倉芳則

商品の基準

～生産資材、リピート商品の採用基準の大枠について～

- ◎当社のお客様の用途、用法に合致しているか
- ◎耐久性、供給、品質、価格のバランスは相応しいか等

ある程度のふるいをかけてから営業を通じお客様に判断して頂きます

場合によっては当地にあった仕様に変更してもらう場合もある

「基本はプロ農家が365日使用して
5年間壊れない品質と耐久性」



不具合があればリカバリーできる商品を優先事項とする安価より安心して使って頂ける物を基準、準備する

(価格交渉も精一杯やっているつもりである)

販売部門の方々には価格だけで商品を判断するのではなく価格と商品のバランスをよく見て判断することを希望します。

近藤永吾

退職者の紹介

NYさん

この9月に退職「Yさんのhistory」

1976（昭和51年）3月1日入社

1982（昭和57年）2月1日退社

1989（平成元年）4月1日再入社をはたす。

2020（令和2年）9月15日退社年



1980年長男誕生、当時の産休は3ヶ月、産休後職場復帰。第2子、長女の出産を機に退職する。

その後上司の勧めで再入社をする。

2004年（平成16年）5月1日（土）本採用となる。

涙なくして語れぬこと也有ったようです。ドラマ的？

昔は先輩を見て覚えるが仕来り暗黙。

ときには家に持ち帰って台帳の計算も夜遅くまであったようです。当然のように家族から口撃、攻撃。見えないところは多くあります。現在は見えない苦労・知財が糧となっていて懐が深い印象を受けます。NYさん・ご家族のご健勝を祈願いたします。

編集後記

トップ画像は「9月1日防災の日」を控えて撮影をする。一般的に写真は二川の山と言われます？今から57年前1963年2月18日1kmに渡り消失。面積にして約150ha（東京ドーム32個分）、大規模火災である。鎮火までに2~3日。当時の記事、インターネットでは出てきません。市役所に問い合わせヒントとなる日が分かり改めて図書館で新聞のデータベースで何とか分かりました。記事から当時戦後最大の災害のようでした。

今は痕跡すらありませんが何十年もかかって現在の姿に。死んだしまった樹木たち新たに再生された新しい樹木、野草、生き物たち。人々による再生、自然がもたらす再生。起こってからは遅い。日々注意したいと考えます。

本来は「企業防災と社内広報」をテーマに記事を起こしましたが紙面ページの制約上次号に繋げたいと考えます。いつ、どこで起こるかわからないのが自然災害。

日頃から防災対策を推進し防災意識を高めることは社員や地域住民の方々の命を守ると同時に会社の事業継続においても重要な課題。万一、被災した時の行動はどうあるべきか改めて考えてみましょう。

朝倉芳則

8月25日発行